


タイトル		仏教思想に見る日本・中国・韓国の共通性と差異		
分野	キーワード	①仏教	②韓国・中国・日本	
人文学				
研究者氏名:伊吹 敦 (所属:文学部インド哲学科)		[お問い合わせ先] TEL:03-3945-7483(東洋学研究所) メールアドレス:toyogaku@toyo.jp(東洋学研究所)		

【概要】 韓国・日本の仏教が中国仏教の移入によりながらも独自に展開していった経緯において、韓国・中国・日本の三国の仏教の差異とその原因を、三箇国の研究者の個別研究とシンポジウムでの意見交換によって探求する。東洋学研究所の研究所プロジェクトによる共同研究。

【研究内容】 日本・韓国の仏教は、中国仏教の移入として始まった。隋唐時代に成立した三論・天台・華嚴・法相・禪・浄土などの諸宗は、日本や韓国にも伝わり、それぞれの国の仏教の中核を成している。しかしながら、同じ宗派を名乗りながらも、その内容には国によって多くの相違がみられ、それぞれに独自の展開を遂げたことが知られる。本研究は、韓国・中国・日本の、三箇国の研究者の個別研究とシンポジウムでの意見交換によって、韓国の仏教にみられるそうした差違を明らかにするとともに、その原因を探ろうとすることを目的とする。



中国の人民大学で開催された第2回国際仏教学術大会



第2回国際仏教学術大会における倉本尚徳氏の発表(前方中央)

2012年6月22日および6月23日、韓国のソウル市で開催された「第1回韓・中・日国際仏教学術大会」において、10年にわたって韓国・金剛大学校、中国・人民大学、東洋大学の3大学の持ち回りで、学術大会が開催されることが締結された。本研究は、東洋学研究所をこの学術大会における東洋大学の研究主体として位置づけるものである。平成25年6月22日・23日に中国・人民大学において、「南北朝仏教研究」のテーマで第2回国際仏教学術大会が開催され、東洋大学から、本研究の研究分担者であり、東洋学研究所の客員研究員である岡本一平氏と倉本尚徳氏が研究発表を行った。平成26年度は、東洋大学が第3回国際仏教学術大会の開催校となる。

【実用化・活用が見込まれる分野・対象業種等】

仏教分野の様々な業種、仏教寺院、文化・教育関係事業

【関連特許】(特許名称・出願番号等)